

大人のおもちゃ



札幌市医師会
岡田内科呼吸器科クリニック おか だ はる お
岡田春夫

テレビゲームなどなかった遙か昔の子供時代には、子供は風の子であって、外で遊ぶことが多かったように思います。屋外での遊びと言えば野球など友達同士での集団での遊びとなりますが、一人のできる遊びもいろいろあります。思い出すのは、小学校低学年の頃でしょうか、ライトプレーンという紙の翼と木材の本体で作る、おもちゃの飛行機のことです。ゴム動力で飛ばすものですが、なぜ記憶に残っているかというと、上手く作れなかったからです。まともに飛んだ経験がありません。当然ながら上手に飛ばすもいなかったので、単純に不器用だったのでしょうね。高学年になってくると、楽しみはプラモデルでした。今時の人気はガンダムでしょうが、私の時代は戦車・戦艦・飛行機などが主流だったように思います。プラモデル作りは楽しいのですが、やはり彩色しなければ完成したとは言えず、そこまではなかなか手が出ませんでした。また完成品はそれなりの大きさがある、たくさん作ると段々置き場所がなくなって困ります。大人になって若い頃には、任天堂からスーパーファミコンが登場しました。人並みにスーパーマリオにチャレンジしていた記憶があります。残念ながら、一度も最終ステージまで到達したことはありませんでした。マリオは今でも世界の任天堂のメインキャラクターですから、凄いものです。これは少し本題から離れてしましますが、ファミコンが登場する少し前には、スペースインベーダーというインベーダーを撃ち落とす、テーブルゲームもありました。1回100円だったので、随分と散財したものです。次に登場したギャラクシアンなども懐かしいですね。その後はレコードなどに熱中していたこともあり（結局これは大変な趣味になってしまったのですが、割愛します）、こうした遊びからは遠く離れた時期が続きます。このような遊びやもの作りに対する興味が復活したのは、10年位前になりますが、テンヨーという会社から販売されている、メタリックナノパズルというキットに出合ったことからでした。金属製の様々なパーツが組み込まれたシートからパーツを切り離し、モデルを組み立てていきます。これは割と難しく、目標としていたガンダムはまだ手つかずで眠っています。同じ頃カワダという会社から発売されている、ペーパーナノという簡単なペーパークラフトも楽しむようになりました。先にペーパークラフト作りのプロのような先生がエッセイをお書きでした

が、恐れ多くもあのような超立派なものではありません。紙製品では、さんけいから出ているみにちゅあーとキットにも楽しませてもらいました。ほとんどが建物でしたが、紙が厚くしっかりしていて、飾ると結構いい感じでした。いずれも不器用な私でも作れる簡単な製品です。このような経緯から今回の主題である、カワダから発売されているナノブロックに出会いました。5ミリ程度の大きさのブロックを組み合わせて、モデルを組み立てていくキットです。お子さん用の100以下のピースから500程度、1,000程度、2,000~3,000程度、5,000以上まで様々なモデルがあります。建物が多いのですが、船や恐竜などいろいろなモデルがあります。推奨年齢は12歳以上となっていますので、中学生程度の年齢で作れるものです。とは言っても、遊んでいる多くは大人です。このナノブロックの良い点は、少し難しく、でも少し我慢すれば完成する点にあります。難しいペーパークラフトは、技術がないと完成できません。年季を必要とする、人を選ぶ遊びですが、ナノブロックに必要なのは、一寸した根気です。そしてそれなりに達成感があって、見栄えも悪くはありません。私がナノブロックを作り始めたころはカワダが唯一の制作メーカーでしたが、こうしたものが好きな方は結構おられるようで、中国製のいくつかのメーカーなどが台頭していきっています。何となく日本製に信頼感があるのですが、他国の製品も安価ではあってもなかなか優れています。大人も子供も楽しめるナノブロックの欠点は、やや値が張ることです。中学生が幾つも作るのには、少々高価かと思えます。不器用な私でも童心に帰って楽しく作れますが、金銭的な意味からこれには子供にはお勧めできません。大人が密かに楽しむおもちゃなのであります。